



海WS-MR1

最終発表

リアル海物語 in 隠岐

海から食卓まで。隠岐に“また会いたい人”ができる1泊2日の遠足。

島根県立大学
関西大学

岡田 愛莉
岡本 明莉

大阪大学
日本大学

眞鍋 佳偉
高田 陽花

2026.08.04

OKI MONOGATARI

“見て学ぶ”研修を、 島に“解決策を返す” 研修へ。

— 海から入り、島を巡り、マップを作り、解決策を返す。1泊2日の企業研修 —





- ・ 島根県立大学
地域公共コース 3回
- ・ 専門：家族と社会
- ・ 石川県金沢市
- ・ 食べること・寝ること
- ・ いいおんな(自称)

おかだ あいり



- ・ 大阪大学 経済学部 3回
- ・ 地域経済学 (地方創生)
- ・ 阪神ファン
- ・ あいみょん
- ・ お笑い



まなべ かい



たかだ はるか

- ・ 日本大学 3年
- ・ 専門：国際共生
- ・ 神奈川県
- ・ 藤井風
- ・ スノボ 



おかもと あかり

- ・ 関西大学 商学部 2回
- ・ 神戸市
- ・ K-POP好き
- ・ 趣味：外国語の勉強
アウトドア



“学ぶ”で終わらせない研修。

—— 島を巡り、マップを作り、島に“解決策を返す”。それが、この研修の特異点。

売るもの 人材育成

答えのない地域の現場で、社員が課題を発見し、自分の専門で価値を提案する力を育てる。（課題発見力・社会課題感度・協働力）

↓ やり切ると、結果として

結果 海が“自分ごと”になり、地域が潤う

数字ではなく、一緒に海ごみを引き揚げた漁師の顔を思い出す。
関係人口・地方創生は目的ではなく、育成の副産物として生まれる。



写真：研修風景

社員が現場で学ぶ/
ワークショップの様子

“越境学習”は、国も推す成長市場

—— しかも本企画は“見て学ぶ”の一步先。巡って、解決策まで出す実践型

6,130 億円

企業向け研修サービス市場

(2025年度予測・矢野経済研究所)

人的資本経営の潮流が追い風



国が実証

経済産業省が「越境学習によるVUCA時代の人材育成」を複数年、実証事業として推進。



先行者あり

JMAMが「ラーニングワーケーション」を事業化(JTBと協業)。市場が既に成立している証拠。



理論の裏付け

石山恒貴(法政大) = 越境学習は“ホームとアウェイの往還による学び”。

隠岐物語

やってきたのは島根県の隠岐諸島

見て学ぶだけで終わらない、島に"解決策を返す"企業研修

見て学ぶ研修じゃない。入って、巡って、描いて、“解く”。

—— 半潜水船で海から入り、島を巡り、マップを手に、最後は島へ解決策を返す



1

入る

半潜水船あまんぼうで海から島の全体像を掴む。
海物語の世界観で“体で入る”入口。

2

巡る

漁師・つくり手・移住者に会いながら島を歩き、
一次情報から課題を拾う。

3

描く

見た・聞いた・感じた課題を“隠岐まっぷ”に書き込む。
発見のための手段。

4

解く

島の依頼書に答え、自分の専門で解決策を島に返す
—— これがゴール。

ゴール — 島に解決策を“返す”

“

牡蠣殻が、年間数トン
余っています。
あなたの業界なら、
何に使えますか？

—— いわがき春香 生産者より

社員が、自分の専門で“返す”。受け取るだけでなく、価値を生み出す研修へ。

写真：牡蠣殻



積み上がった牡蠣殻の
クローズアップ

見て学ぶ研修・観光ツアーとの違い

——“見せて終わり”ではなく、巡って・描いて・“返す”ところまでやり切る

写真：隠岐まっぷ



課題と発見が書き込まれた
完成した“隠岐まっぷ”

1

巡って発見する

案内される観光でなく、
自分の足で島を巡り、
マップを作りながら課題
を発見する。

2

解決策を返す

見て学ぶだけで終わら
せず、島の依頼書に自分
の専門で答え、
提案を島へ返す。

3

連作で続く

一度きりでなく季節ごと
に通い、自分の提案の
続きを見に帰る。
関係が続く。

小さいけれど、確実に、伸びている

—— 数字は盛らない。地域の実数との比率で正直に示す

0.8%

Phase1の延べ120名は、海士町の宿泊客延べ数の約0.8%。全国では小さいが、人口約2,300人の島ではこの数%が事業者収入に直結する。

経済効果 年約 662万円

追い風（原典データ）

- あまんぼう乗船者 前年比 +27.8%
- 海士町の宿泊客 前年比 +17.7%
- 隠岐の宿泊客の“また来た”率 51.2%

測れない価値（定性）

課題を“解く”実践型の人材育成効果／関係人口の創出／担い手の“誇り”の再生／海の問題の自分ごと化／他地域への展開。

Our Vision — “解く研修”の器を、進化させる

—— 今は既存の船＋人で堅く検証。船の進化は、収益が立った後

- 2026.08 最終発表・検証パートナー1件
- 2026 秋 自費で現地下見
(行程・コスト検証)
- 2026 冬 関係づくり・法対応・営業
- 2027 春 モニターツアーでKPI全項目検証
- 以降 Phase1→2 (AR体験)
→3 (水素・宿泊船)



エンタメ × 環境問題 × レジャーで、まだ魅力が可視化
されていない海へ、器ごと展開する。

まず、秋の下見に 同行しませんか。

この秋の自費下見に同行・協賛いただける“検証パートナー1社”を探しています。

写真：参加者



海辺に立つ人々／
研修参加者の後ろ姿

企業

研修先／検証パートナー。人的資本開示・企業版ふるさと納税の素材にも。

海士町・地域

受け入れの共同設計者として、暮らしの声と合意形成を。

財団・自治体

教育連携・関係人口事業として連携を。

受け取る研修から、
“返す”研修へ。

海の問題は、
“知っている
人の顔”に。

ありがとうございました



海WS-MR1

Thank You!

ありがとうございました



Appendix

隠岐物語：海から始まり、地域の「企業研修」型プログラム

海

海を「地域の展望台」として捉える

半潜水型船で海の豊かさと課題を観ることで、暮らしと自然のつながりを直感的に理解します。



空白の「隠岐まっぷ」から始まる発見

ヒントだけの地図に、自ら見たものや感じた課題を書き込み、自分だけの地図を完成させます。

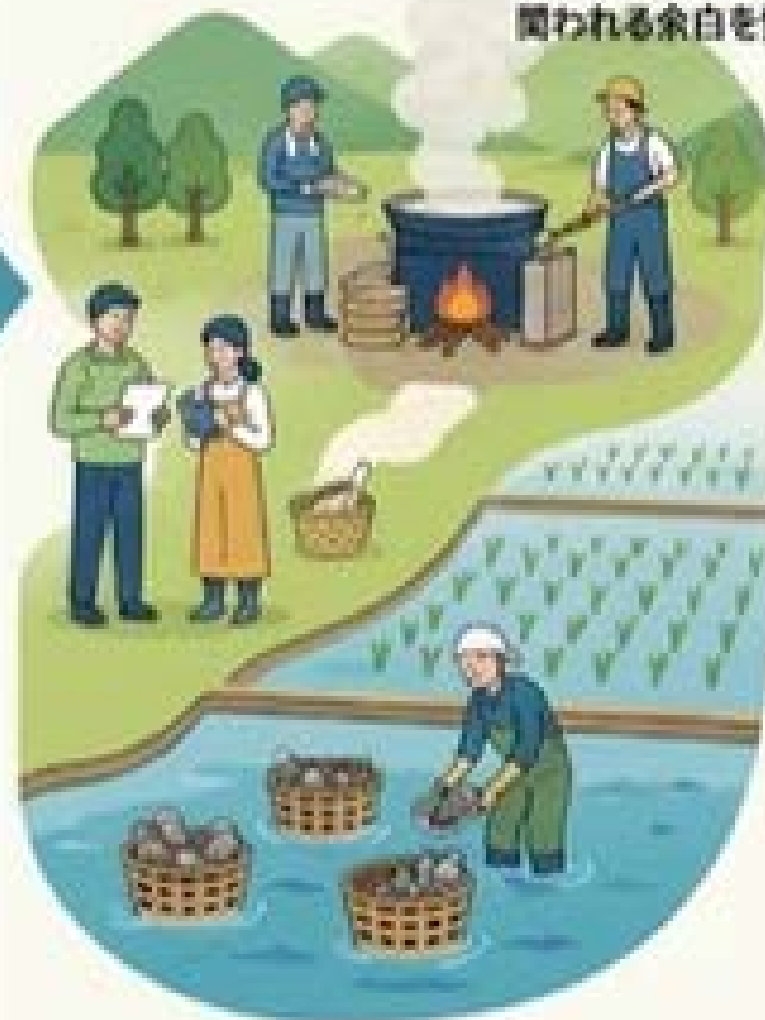


課題発見型フィールドワークとまち歩き

地域

観光ルートではない、地域の人々が働き、悩み、受け継いできた現場へ入り込みます。

まち歩き（偶発的な出会い）で魅力・課題・関われる余白を発見。



海・陸・人がつながる「食卓の循環」

本気米（米）

牡蠣殻や牛の排泄物を活かした循環型農業



資源循環（牡蠣殻と課題のつながり）を体験。



資源循環（牡蠣殻など）と課題のつながりを体験。

海・岩牡蠣

清浄な水質で育ち、地域の産業を支える



海土乃塩

海水・塩・人の手仕事から生まれる



「専門家」から「島への提案者」への変容

自分の専門知識を使って、島の「依頼書」に提案を返すことで、課題解決力を高め、海の問題を「自分ごと」にする関係人口へと成長します。



提案ワーク
「島の依頼書」への応答。

プログラム詳細：「リアル海物語」

半潜水型船あまんぼう



リアル海物語 体験フロー — 海中観察から報酬受け取りまで —

1 ホーム画面



海の世界を始めるための入口画面。
ここから観察・魚探・学習・スロット体験へ進む。

2 魚を探す



半潜水型船から海中を観察し、
魚影を見つけよう。
見つけたら画面をタップ!

3 魚を発見する



見つけた魚を記録し、
観察情報として保存。
レアな魚はコレクションに追加!

4 図鑑で学ぶ



魚の特徴や生態、環境との関わりを学ぶ。
知ることで海への理解が深まる。

5 コインを獲得する



図鑑の確認や学習の完了に応じて、
コインを獲得。コインはスロットや
学習のための報酬に使用!

6 スロット画面



獲得したコインを使ってスロットに挑戦。
「リアル海物語」オリジナル絵柄で運試し!

7 魚を揃える



スロットの結果で魚が揃うと
コレクションに追加!
揃えば揃うほど、もらえる報酬もUP!

8 大当たり演出



特定の魚を揃えると大当たり!
豪華ボーナスコインを獲得できる!

9 報酬受け取り



獲得したコインは地域の産品や体験と
交換できる! 隠岐の魅力を持ち帰ろう。

学ぶ・観る・遊ぶ・当てるの
サイクルで、海への理解が
楽しさに変わる!

体験を通じて隠岐の海を
もっと好きになろう!



観察・学習・コイン獲得・スロット・報酬交換の体験を通じて、隠岐の海への理解と関心が深まります。

リアル海物語 in 隠岐

海から始まり、地域に入り込む。

海中観察・岩牡蠣・塩・まち歩き の1泊2日

半潜水艇船で海から隠岐島の全体像を眺め、
岩牡蠣・塩・米づくりの現場をめぐり、
地域の人と出会いながら「隠岐まっぷ」を
完成させる冒険型プログラムです。



隠岐まっぷをつくる



地域の人と出会い、学ぶ



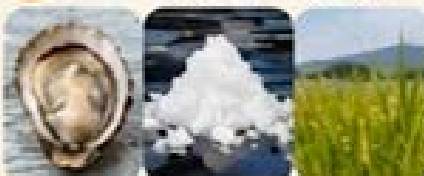
つくり手の食卓を囲む

1 海中観察クルーズ。



半潜水艇船「あまんぼう」で
海中観察、三食目をめぐり、
海の豊かさと課題を体感します。

2 つくり手の現場



いたがき青苔・海士乃塩・水気米、
生産現場を巡り、食と地域資源の
つながりを学びます。

3 まち歩き&隠岐まっぷ



中国・摩訶まで、人の地域理解に出会う。
空目の地図に書き込み、自分たちだけの
隠岐まっぷを完成。

1泊2日プログラム

日次	時間	行程
1日目 🌀	13:10	湊湊港 集・集合／オリエンテーション
	13:20	Stage 1 海中観察（あまんぼう）
	14:30	Stage 2 漁師との共同作業・海ごみ可視化
	16:00	Stage 3 特産品の現場（岩牡蠣・海士乃塩）
	17:30	チェックイン（Entô）
	18:30	Stage 4 つくり手の食卓
	21:00	夜の振り返り・隠岐まっぷ記入
2日目 ⚓	7:30	朝食
	9:00	Stage 5 まち歩きフィールドワーク
	10:30	Stage 6 地域循環（明屋海洋・隠岐潮風ファーム）
	12:00	最終ワーク：隠岐まっぷ完成
	13:00	発表・クロージング

※天候・船社により内容が変更となる
場合があります。

※夜間プログラムは予祭・天候により
調整します。

※地域との協賛を両側に実施します。

お問い合わせ

隠岐観光協会：☎020-48-4664

プログラム主催：013-26-5589

問い合わせ：www.okituihato.or.jp/sumnuary.co.jp

この企画の特徴

- 観光ではなく「地域に入り込む満足」
- 「食卓の循環」で海・陸・人・
産業のつながりを体感
- 地域の人とつながり、
関係人口を育む
- 対象：企業研修／教育団体／
探究学習

食卓の循環



見る、聞く、歩く、つながる。

隠岐の *story* を知り、その続きを一緒に作る。



隠岐アイランド

わたしたちだけの!

海士ブルー探検マップ

海中展望船と自由探検! 1泊2日モデルコース

海を見て、学んで、感じて、味わって。
行きたいところを自由にえらんで、
自分だけの隠岐の思い出をつくろう!

モデルコースの流れ(例)

1日目

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6

2日目

- 7
- 8
- 9
- 10
- 11

※行きたい場所は自由にえらんでOK!

いろんな発見が
きっとあるよ!

行きたいところリスト

-
-
-

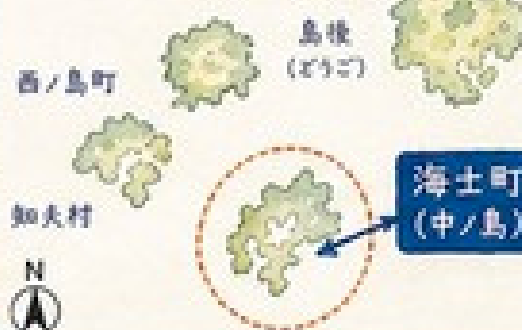
スポット名:

行った日: / /

感じたこと・気づいたこと

素敵な景色を
見つけよう!

隠岐諸島 MAP



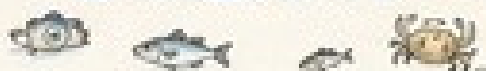
今日の気づき・感じたこと

今日の食卓テーマ「海と陸の循環」



おいしかったもののメモ

見つけた生きもののメモ



心に残った瞬間

未来につなげたいアイデア

旅のまとめ・メッセージ

自由にえらんで、自由に書いて、自分だけの海士ブルーの物語をつくろう!

想定問答（Q&A）

—— よくいただく4つの問いへの答え

Q. 半潜水船なら隠岐でなくても？

順序が逆。あまんぼうは既存資源で新規投資ゼロ。牡蠣→塩→米→食卓が徒歩圏に凝縮された島は他にない。価値は映像でなく“同じ食卓を囲むこと”。

Q. よそ者に提案などできる？

実現する必要はない＝役割分担。実装は地域が決める。外部の目の価値は“原石・鏡・本気の証拠”で、正しさではない。

Q. 海をゲーム化しているだけでは？

「賭け」と「負け」を排す。報酬は本物を学んだ分だけ。最大の“大当たり”は、自分の提案に島の人々が「面白いね」と言う瞬間。

Q. JMAM等の越境学習との違いは？

重厚な往復型に対し、本企画は1泊2日への凝縮・海物語の入口・“返す”提案・連作。先行者の存在は市場が成立している証拠。

収支の試算（1泊2日／1便・12名）

—— あまんぼう・遊漁船は実価格、他は実勢に基づく概算。往復交通費は別途

区分	金額（円）
売上（客単価 98,000円 × 12名）	1,176,000
半潜水船あまんぼう（2,000 × 12）	24,000
漁師との共同作業（遊漁船＋謝礼）	60,000
春香・海士乃塩 現場体験＋謝礼	60,000
隠岐牛・田んぼ／本氣米＋謝礼	30,000
宿泊 Entô（20,000 × 12）	240,000
つくり手の食卓・夕食（7,000 × 12）	84,000
まち歩き協力・コーディネート	50,000
ファシリテーター（2名・2日）	90,000
島内移動・教材・保険ほか	90,000
本部費（約10%）	72,000
原価合計	800,000

粗利

376,000 円

粗利率 約32%

真の収益は単便でなく、法人研修パッケージ・連作の継続課金・産品リピート・企業版ふるさと納税の積み上げ。少人数は“関係が生まれる条件”を優先した設計。

成果指標（KPI）と検証計画

—— 人数や売上だけで測らない。参加者の意識変容と地域との関係性を測る

検証項目（全便で測定）	目標値
参加者満足度（5段階・事後即日）	平均 4.2 以上
「地域への関心が高まった」回答率	80% 以上
「漁師・つくり手と話せた」実感率	90% 以上
再訪意向率（1か月後フォロー）	60% 以上
実再訪者数（連作参加・累計）	20名/年（P2）
地域産品リピート購入率	30% 以上（P2）
つくり手・漁師の満足度（每便後）	4.0 以上
1便あたり粗利率	30% 以上
法人・教育団体の継続契約	3社以上/年（P1）

実施体制 — 産・官・学・地域・企業の共創

連携先	役割
環境EIC MR-1（主催）	企画統括・全体設計・体験品質の管理
TADAYOI（運営）	船の運航・体験運営・宿泊
あまんぼう	半潜水型船の提供（海からの全体像）
J-AIR	大阪伊丹—隠岐のアクセス・地方創生PR
海士町役場・観光協会	政策連携・地域調整・受け入れ窓口
岩牡蠣生産者／漁協	生産現場・海の知識・一次情報の提供
海士乃塩 事業者	塩づくりの現場・手仕事の継承
米づくり・農業／畜産	田んぼ体験・海と陸の資源循環
地域の食堂・民宿	つくり手の食卓・暮らしとの接点
協力隊・移住者・島留学生	まち歩きの“出会い”・若い担い手の声
地域住民（区・自治会）	暮らしの声・共同設計・受け入れの合意形成
三菱みらい育成財団	教育連携・資金面の連携
三洋物産	海物語の演出・世界観の協働（可否を確認）

ロードマップと数字の出典

—— 補助金を前提にしない立ち上げの規律

2026.08

最終発表
検証パートナー1件

2026 秋

自費で現地下見
行程・コスト検証

2026 冬

関係づくり・法対応
保険・営業

2027 春

モニターツアー
KPI全項目検証

以降

Phase1→2→3
(水素・宿泊船)

数字の出典（すべて公的統計の原典に基づく）

- 島根県「令和6年 観光動態調査結果」 県外宿泊客1人あたり観光消費額 35,047円（p.60）／経済波及効果 1.28倍（p.5）
／海士町 宿泊客延べ 15,765人泊（p.55）／あまんぼう乗船者 2,953人（p.32）
- 島根県「平成27年 産業連関表」 経済波及効果倍率1.28の算出根拠
- 矢野経済研究所（2025） 研修市場6,130億円
- 経済産業省／石山恒貴『越境的学習のメカニズム』 越境学習の定義・実証